



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2016年3月 - 4月号
Vol.34

支援者の皆様へ

感謝に満たされて

いつもお祈りのご支援をありがとうございます。

2月にお送りしたお手紙で、活動を再開してから2ヶ月間のご報告をさせていただきました。

その後2ヶ月経ちますが、皆様のお祈りに支えられつつ、少しずつ活動を再開しています。自宅での仕事や自転車圏内の教会での仕事に加え、都内での会議や、遠隔地への出張などもこの2ヶ月で何度か行くようになりました。また、会議の司会進行をする、大勢の人の前で話すなどの機会も与えられました。

どれも「2年間ずっとしていなかったこと」ばかりなので、最初は「以前と同じようにできるだろうか」という不安や、また消耗しきってしまわないだろうか。体力は大丈夫だろうか。途中でパニックに陥ったりしないだろうか、などの不安がつきまといまいます。しかし、回を重ねるごとに、神が私を確かに癒してくださり、「社会の中で人の役に立ちたい」という療養中、心の奥底で願っていたことがかなえられていることに、ただただ感謝に満たされています。

この「Prayer Letter」を皆様に宛てて書くこともまた、療養中はまったくできませんでしたので、今こうして書いていること自体が喜びであり、「私はやっとここまで戻ってきた」という実感を伴う行為です。半身不随だった人が歩けるようになったように、祈れること、笑えること、「色のついた」世界を観ること、働くこと、人と話すこと、書くこと、、、など、ひとつひとつの当たり前前のごことに、幸せをかみしめる毎日です。



2016年4月 自宅近くの公園にて

まだ回復期ですので油断は大敵であり、「孵化したばかり」のような「新しい自分」の身体や心と折り合いをつけながらリハビリ期だと思って、周囲の方々のご理解やご配慮をいただきながらの活動再開です。「以前のようにはたくさんのごことはできない」ということを受け容れながら、そのなかでできることの幸せを味わうことを学んでいきたいと願っています。

2月～3月の活動

大熊町で「見捨てられた牛」を助ける活動に参加

2011年から現在に至るまで、FVIは断続的に福島に通い続けてきました。昨年春、福島から帰った神田師に、原発事故後に殺処分されていく運命にあった牛7頭を引き取り、帰還困難区域の大熊町内の牧場でお世話をしている谷咲月さんという方を紹介されました。そのときはまだ私は病気療養中で、福島に行けるような健康状態ではありませんでしたが、「生まれた仔牛と母牛に、どのような餌を与えて良いかなど、獣医師としてアドバイスがほしい」という要請を受けて、月に一回ほど電話で相談に乗ってきました。

私の体調が回復しはじめた昨年11月に、2年半ぶりに福島の地を訪れ谷さんと初対面し、大熊町に立ち入り牧場と牛たちを見せていただきました。今年2月にも、二度目の訪問をし、餌を運んだり、牛たちの牧草ロールを置く台座を作ったりといった、ささやかなお手伝いをさせていただきました。

震災発生時、谷さんは東京に住んでいましたが、放置牛殺処分のテレビ報道にショックを受け、週に何度も福島に通って牛たちの面倒を見始めます。その後福島に転居し、現在は塾講師とコンビニのアルバイトを掛け持ちして生計を立てながら、「社団法人 ふるさとと心を守る友の会」という団体を立ち上げ、地元の人々の協力を得て牛たちを助けています。震災によって苦しんでいる「声なき者」は人間だけでなく自然界全体です。「経済的な利用価値のなくなった牛」を、生き物としての尊厳があるから、という理由だけでお世話をするその行為は創世記1～2章に示された「神の代理統治人として地を管理する」という人間への神の御心の具体化だと感じました。また、「耕作放棄地」に放たれた7頭の牛が伸び放題だった雑草を食べて正常な生態系のサイクルを取り戻すとともに、時間と共に周囲よりも放射線量が徐々に減るといったような、「農地保全」の観点からの副次的な効果もわかってきています。

FVIは今後、「ふるさとと心を守る友の会」とも協働し、被災5年後以降の福島での学びと働きを続けていくよう導かれています。お祈りいただければ幸いです。

*「ふるさとと心を守る友の会」を紹介したBS放送の番組がYouTubeでご覧いただけます。

URL: <https://youtu.be/BaUwkpPdk0g> または、YouTube「未来への教科書」で検索

愛知県の教会でのデピュテーション

3月中旬に、妻と二人で愛知県の2年半ぶりにふたつの教会（ICBCと信愛キリスト教会）を訪問し、日曜日の礼拝で証をさせていただきました。皆様とお話する中で、これまでどれだけ多くの方々に祈り支えていただいていたかと言うことを感じさせられ、胸がいっぱいになりました。このように直接ご報告し、感謝を述べることができていると言うことが、一年前には考えることすら難しかったことを思いますと、神様の偉大な憐れみに圧倒され、ただただ感謝があふれました。言葉ではどうも表しきれませんが、信じてお祈りくださった愛知の方々に、心よりありがとうございます。

札幌の病院で「メンタルヘルス勉強会」など

3月25日に、札幌市手稲区にある医療法人「稲生会」にて、職員向け「メンタルヘルス勉強会」にてお話をさせていただき、同日夜に小児科医で同法人理事長の土畠智幸氏が主宰する「コミュニティ・ヘルスケア・デザイン研究会」で講演しました。土畠氏とは、FVI の働きで札幌の「グレースコミュニティ」で奉仕させていただいた6年前に出会いました。2013年秋、私が体調の異変を自覚し始めたころ、出張中に練馬区に立ち寄ってくれ、当時は設立間もない「稲生会」のビジョンを分かち合ってくれました。「**社会生活に困難を抱える当事者と共により良い未来の社会を造っていく**」という彼のビジョンに私も共感し学ばされていまして、その直後に自分がバーンアウトし療養することになるなど知らない当時の私は、単純に彼の夢を応援したい気持ちでいっぱいでした。私が療養している2年間に40名以上の職員を抱える地域の障害者医療と学びの拠点へと発展したその病院のカフェに立ち、職員の皆様に私の病気の体験からお話できたことは、本当に特別な機会でした。

「深い穴の底」にいる間、お互いに直接連絡を取ることも叶いませんでしたが、土畠氏は毎日欠かさず、更新されない私のブログを開いてくれていたと言います。昨年春に、1年半ぶりに会った時「その行為が自分にとって、俊君のための“祈り”だった」と聞かされた時、「このような友達がいてくれたから、自分は深い穴の中から生きて戻ってくることができたんだなあ」と思い、こみ上げるものがありました。

これは私の「メンタルヘルス勉強会」の核心でもあります。結局のところ、「深い穴」から私は自分で這い出たのではなく、彼のような親しい友人たち、妻や家族やFVIの関係者、お手紙を読んでくださっている皆様のような「**信じて祈ってくれた人々**」の手よって穴から引き上げられたのです。薬や休養、認知行動療法やカウンセリングなど、すべて役に立ちますが、「誰かが自分を愛してくれている」という事実以上に人を絶望の深淵から救うものはない、というのが体験から私が語れるようになった「真理」です。

*稲生会のホームページから、動画などを通し困難を抱える人々からの様々なヒントを得られます。

URL : <http://www.toseikai.net/> または、検索バーに「稲生会」で検索

ブログで「デボーションジャーナル」

「ジェネシー・ダイアリー」という書物があります。これは司祭であるヘンリ・ナウエンが、自らの鬱病療養と霊的修養のために修道院に籠もり、7ヶ月間の修道士生活を送った時の日記をそのまま書籍化したものです。2014年春、最も私の健康状態が良くなかった時期に心に慰めを与えてくれた数少ない本のなかの一冊が「ジェネシー・ダイアリー」でした。

困難を抱える当事者が、その困難ごと神の前に祈り（あるいは祈れず）、その「内的な言葉」を記した素朴な葛藤の記録が、こんなにも人を慰め励ますものかと思った記憶があります。「まったく祈ることができない」魂の夜の2年間を経た私は今、祈ることのできる恵みの大きさに日々新鮮な驚きを覚えています。この恵みを分かち合うことが、もしかしたら誰かにとって慰めや励ましを与えることがあるかもしれないと思い、主催するブログ「陣内俊 Prayer Letter ONLINE」（検索バーに「陣内俊」と入力）で、ジャーナルを分かち合っています。ご興味のある方はスマホやPCで訪問くだされば幸いです。

これから予定されていること

ウクライナの協力団体との交流、チェルノブイリ原発訪問（4月後半）

震災後5回にわたりFVIが主催した「福島未来会議」などの震災支援活動を通して、1986年に原発事故

を経験したチェルノブイリ周辺で長きにわたり事故後の直接的な被害や、間接的な困難を抱える方々と寄り添う活動をしている団体との交流が広がっています。FVI と現地団体、福島とチェルノブイリ、日本とウクライナにとって、良き相互学習と互惠の機会となるようお祈りください。

祈りの課題

- ◇今は活動のペースや勘を取り戻すだけでなく、「病気を経た自分がどのように今後主によって用いていただくか」という方向や導きを受け取る大切な時期です。主の語りかけを受け取ることができるようお祈りください。
- ◇私と純子の健康と歩みのために、2年間の「社会的には足踏み」の時期を経て、神を中心とする家族を築く歩みの新たなステージにいると思います。夫婦が喜びをもって主に仕えられるようお祈りください。

4月以降のスケジュール

| 月 日 | 内 容 | 場所、補足 |
|-----------|-----------|--------------------|
| 4月17日 | 礼拝でメッセージ | 練馬グレースチャペル（練馬区） |
| 4月21日～29日 | 協力団体との交流 | ウクライナ（チェルノブイリ） |
| 5月13日～16日 | デピューテーション | 香川県さぬき市 |
| 5月22日 | 礼拝で奉仕 | 立川福音自由教会（立川市） |
| 7月上旬 | デピューテーション | 北海道札幌市 |
| 9月27～30日 | JCE6分科会 | 神戸コンベンションセンター（神戸市） |
| 随時継続して | FVIの各種活動 | 国内各地 |

連絡先

〒443-0013 愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 100-2 国際クリスチャンバプテスト教会内 「陣内俊を支える会」
陣内への Email shun@karashi.net ブログ URL : <http://ameblo.jp/shunjinnai-kingdomcome/>

支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
(同封の振込用紙がご利用いただけます。)

- *振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- *2カ月に一度、プレーヤーレターに2枚（2か月分）お送りさせていただく振替口座の振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封させていただきますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。
- *Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。